

令和2年度 動物愛護週間中央行事実施結果

1 動物愛護週間中央行事への参加

動物愛護週間は、広く国民の間に、命ある動物の愛護と適正な飼養について理解と関心を深めるために設けられているもので、国及び地方公共団体はその趣旨にふさわしい行事が実施されるように努めなければならないことが「動物の愛護及び管理に関する法律」第4条に定められている。

本会は、本年も、東京都内で開催された「動物愛護週間中央行事」に、国及び東京都、台東区並びに動物愛護団体等で構成する動物愛護週間中央行事実行委員会に主催者構成団体として参画した。

2 令和2年度動物愛護週間中央行事の実施結果

令和2年度動物愛護週間中央行事は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止のために大幅な計画の変更を余儀なくされた。10月3日(土)に、上野恩賜公園不忍池周辺で予定されていた屋外行事は中止となり、9月26日(土)に行われた屋内行事は、台東区生涯学習センター ミレニアムホール内での様子をオンラインでライブ配信する形で開催された。

○令和2年度動物愛護週間中央行事(屋内行事)の概要

【テーマ】「人も動物も幸せに
～考えよう、共にくらす社会～」

屋内行事は、9月26日(土) 13:00～17:00に台東区生涯学習センター ミレニアムホールにて、以下の2部構成で実施され、YouTubeを用いたライブ配信が行われた。リアルタイムでの視聴者は約200人であった。

第1部では、環境省をはじめとする実行委員会構成団体による、各コンクールの受賞作品等が紹介された。「第32回日本動物児童文学賞」を主催する本会は、全139の応募作品の中から、大賞、優秀賞及び奨励賞に入賞した8作品を紹介した。大賞受賞者である西村ひとえ氏には、環境大臣賞及び損害保険ジャパン日本興亜(株)から副賞が、優秀賞受賞者である石田七海氏、小粒すずめ氏には損害保険ジャパン(株)及びアニコム損害保険(株)から副賞が贈られた。

第2部では、4名の有識者による講演会が行われたのうち、「人も動物も幸せに～考えよう、共にくらす社会～」をテーマとするパネルディスカッションが行われた。

(1) 第32回日本動物児童文学賞 受賞作品紹介

〈日本動物児童文学大賞〉

「君がいるから、うまく読めるよ」西村ひとえ(山口県)

〈日本動物児童文学優秀賞〉

「猫の乗客」 石田七海(神奈川県)

「ツバメ飛ぶころ」 小粒すずめ(千葉県)

〈日本動物児童文学奨励賞〉

「カラス de カルタ」 のだますお(東京都)

「いっそ世界が猫だったら」まきうち れいみ(東京都)

「親友の犬は…」 ちゃーちゃん(岩手県)

「老犬ドングリがのこしてくれたもの」

山下 厚(千葉県)

「マリイからの手紙」 岡田陽子(千葉県)

(2) 講演会及びパネルディスカッション

ア 講演会

〈飼い主講座〉

「コロナ時代、ペットとどう向き合うか
～新型コロナウイルス感染症とペット～」

講師：中川清志氏(公社東京都獣医師会副会長)

〈講演①〉

「人と動物の幸せにつながるソーシャルワークとは
～動物介在活動の現場から～」

講師：上山琴美氏
(認定NPO法人キドックス代表理事)

〈講演②〉

「動物園で考える『動物と人の福祉』
～大牟田市動物園での取り組みを例に～」

講師：椎原春一氏(大牟田市動物園園長)

〈講演③〉

「鳥の目から見る、人と動物の共生社会
～虫の目に偏らないために～」

講師：奥田順之氏(認定NPO法人
人と動物の共生センター理事長)

イ パネルディスカッション

「人も動物も幸せに～考えよう、共にくらす社会～」

コーディネーター：

石田 戡氏(一財動物観研究所所長)

パネリスト：

上山琴美氏(認定NPO法人キドックス代表理事)

椎原春一氏(大牟田市動物園園長)

奥田順之氏(認定NPO法人人と動物の共生センター理事長)



開会のあいさつをする動物愛護週間
中央行事実行委員会 田畑直樹委員長



講演する中川清志氏



講演する上山琴美氏



講演する椎原春一氏



講演する奥田順之氏



パネルディスカッションでコーディネーターを務める石田 戡氏